

“ともに立ち上がろう！” JBU 救援ニュース <第 13 号>

基幹労連
東日本大震災
中央災害対策本部
2011年7月5日(火)
www.kikan-roren.or.jp

～被災された多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます～

◆現在の被災状況

現在掌握できている組合員の人的被害 死亡12人、行方不明1人(7月5日現在)

◆今後のボランティア活動について

- ① JBU パワーバンク 9月以降の派遣については今後検討します
- ② 連合ボランティア ～岩手県陸前高田市へ～

あらたに8月以降について次のとおり派遣要請が来ていますので、引き続きご協力をお願いいたします。(基発258号参照)

第17陣：7月31日(日)～8月 6日(土) 10名
第18陣：8月 7日(日)～8月13日(土) 〃
第19陣：8月14日(日)～8月20日(土) 〃
第20陣：8月21日(日)～8月27日(土) 〃

(締切7月19日AM)

いずれも
出発：AM東京発
帰着：AM東京着
実働5日間

主な救援活動：民家の泥出し、家財片づけ、瓦礫の撤去、物資の仕分け、
公共施設の泥出し、市街地の側溝泥だしなど

◆ボランティア活動報告

基幹労連からのボランティア参加者(6月29日まで) **347名**

□ボランティア体験談 連合ボランティア～釜石地区 第7陣より～



私の参加した岩手県旧花巻市土沢小学校校舎を拠点とする東和ベースキャンプは、基幹労連19名、自治労35名、連合10名その他スタッフ80名で活動し、バスで1時間半の釜石周辺での民家の片付け・裏庭の片付け・少年野球グラウンドの瓦礫の撤去などを主に行ないました。

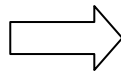
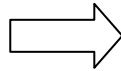
津波の被害で全ての物や、泥・廃材が流れてしまっていて、ボランティアセンターでお借りした、一輪車・スコップ・土嚢袋が、大変役立ちました。しかし、民家床下の土砂の撤去はス

コップ等が使えず、廃材の中の役立つ物を、その場で臨時に加工し、基幹労連のものづくり産業が、即座に役立ちました。20歳の若手から58歳まで即座の判断力・安全作業を最優先し、配置のバラ

ンス・個人の責任感と、完全にプロのチーム力で動いていました。現地の方々への配慮を忘れないこのチームで働けたことは、今後役立つと思います。又、必ずボランティアに参加します。

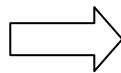
住友金属鉱山菱刈鉱山労組 上橋春男

<上橋さんの活動報告より一部抜粋>



住めるようになるにはまだ多くの作業が必要

しかし、確実に一步前進になったと思う！



多くの思い出の品々を捨てざるを得なかった。ご家族の思いは理解しつつも復興に向けた小さな一歩になったと思いたい。

以上

<基幹労連本部連絡先> 電話 03-3555-0401

土日・祝日・夜間(携帯電話)090-9412-5759